

## 保存範囲の検討

府庁舎本館建物の歴史的・文化的価値を踏まえ、保存範囲について整理した。

〔監修〕 大阪府立大学 橋爪紳也

〔意見をいただいた専門家〕 大阪芸術大学 山形政昭 京都工芸繊維大学 石田潤一郎

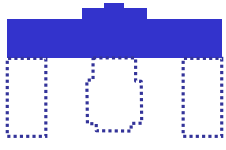
### 〔保存範囲〕

### 〔竣工時の面影を残し建築的価値が高いと思われる箇所〕

**文化財的価値**


**東館 型を保存**

建築的・文化財的価値が高い中央コア部と、上町筋側の外観デザインを保存。



13,500㎡ 工事費 51億円(撤去費含む) 工事期間 2年

外観 正面玄関 3層吹抜ホール 正庁 知事室 議長室



陸屋根・石材及び白色の擬石タイルを用いた意匠

高松産の紫雲石を用いた装飾レリーフ

大規模な3層吹抜ホールに12本の長大な柱が林立し、仕上材にイタリア産大理石を使用。

壮麗な室内装飾とステンドグラスを使用した自然採光天井及び東側窓

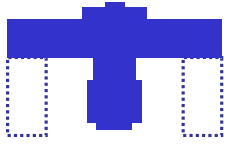
木造作(腰羽目板)、出入口造作扉、天井装飾

木造作(腰羽目板)、出入口造作扉、天井装飾

**歴史的価値**

**東館T型を保存**

文化財的価値の高い東館型に加え、歴史的価値のある議場を保存



17,000㎡ 工事費 57億円(撤去費含む) 工事期間 2年半

同上(型) 議場 食堂(復元した場合)




木造作、列柱頭飾りなど室内装飾や意匠は格式あるクラシカルなデザイン

アールデコ調の意匠ただし、既に改修され、当初の特徴がみられない

**景観的価値**

**東館T型と外観を保存**

大阪城周辺地域の風格ある建物として、T型と外壁を残し、上町筋・大手通側の景観を保存。



17,000㎡+外壁 工事費 57億円+ 工事期間 2年半+


同上(T型) 大手通外壁



**建築物全体の価値**

**東館全体を保存**

歴史的・文化的価値ある部分に加え、鉄筋コンクリート造の規模と大きさ、外観デザインなどの建物全体を保存。



25,000㎡ 工事費 70億円(撤去費含む) 工事期間 3年


同上(T型+外壁) 東館ウイング



**西館の価値**

**西館の保存の必要性は低い**

東館の別館として建設された西館は、仕上材のグレードが異なるなど、建築的価値は低く、長期的な保存の必要性は低い。



9,000㎡ 工事費 撤去 3億円

西館



**本館の特色と価値(専門家意見のまとめ)**

**建築的特色と価値**

〔文化財的価値を有する庁舎建築〕

竣工時(大正末年)における先進的な外観デザインを有する庁舎建築。

文化財的価値の核心部分は、東館型主要部分に集中している。

〔都市景観上の価値〕

類例を見ないスケールとデザインの正面玄関や、車寄せを中心とする東面の主要部に加えて、大阪城大手門へ通じる東南方向から斜めの景観や西から大手通りに沿う景観の上で、東館の南ウイング外壁は本館建築の壮大さを視覚化する重要な要素。

東館の上町筋に面した間口幅と大手通に面した側面の幅との比が2:1で、そのことが外観のプロポーションの安定感を生んでいる。

〔建築物全体の価値〕

文化財的価値や景観価値を包括し、東館全体で、大阪の誇りとなるべく建設された庁舎の規模を今日に伝えている。

西館については、長期的な保存の必要性は低い。

〔議場部分について〕

当初の庁舎を継承する建物として、歴史的な重要性は高い。ただし議場内は木調の伝統様式に習うインテリアとはいえ、近年かなりの改変があり、文化財的価値は高いとは言えない。

その他

〔保存に向けて〕

修復中の正庁のように、歴史的価値を有する部分(議場など)の復原や、撤去部分と保存部分との境界部分の適切な改修、ないしはリノベーションが望ましい。